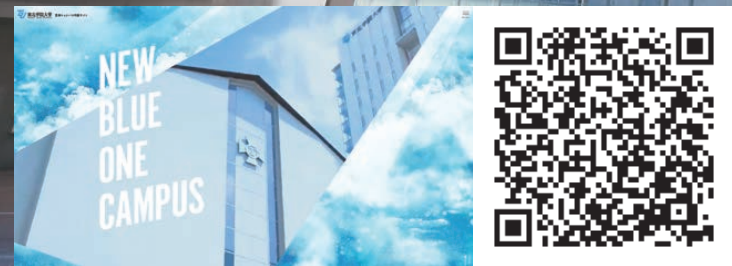


NEW BLUE ONE CAMPUS

都市型キャンパス 始動

五橋キャンパス特設サイト



新しい可能性を開く、都市型キャンパス

2023年、いよいよ「五橋(いつつばし)キャンパス」での学びが始まりました。伝統ある土樋(つちとい)キャンパスと一体となった「ワンキャンパス」として教育・研究の場へと進化することで、全学部の学生が共通の教育方針のもとに学べる環境が整い、「文理融合」によってそれぞれの専門分野を相互に深めることが可能になりました。その中で期待されるのは、地域の課題を解決する力を身に付けることです。そのために五橋キャンパスは、市民に開かれた新しい都市型キャンパスとして校門や塀を設置せず、地域の方々にもご利用いただける多目的ホールやカフェテリアなどを設けました。学生は他学部の友人や市民の方々など、分野を越えたコミュニケーションによって多様な考え・価値観に触れ、変化の激しい現代社会を生き抜くための広い視野を養い、自身や地域の新たな可能性を開くことができます。



POINT 1

地域と共創する都市型キャンパスへ

明治期から多くの高等教育機関が立地していた「学都仙台」の新時代を代表し、時代のニーズに応える教育・研究の場である都市型キャンパス(アーバンキャンパス)として、キャンパス内には地域の方々自由に訪れることのできる食堂や広場などのオープンスペースを整備。押川記念ホールは市民活動にも利用できるようにするなど、新たな交流拠点としての役割も担います。また、地域社会との交流やフィールドワークなどを通して学生自身も学問研究における気付きを得られるようにするなど、地域と学生、相互の活性化をめざします。

POINT 2

学生同士をつなぐ「TGUリング」

五橋キャンパスは、学生や教員が学問・研究に励む「講義棟」「研究棟」、市民も利用できる学生食堂やホールを備えた「押川記念館」、コラトリエ・ライブラリー(図書館、ラーニング・コモンズ)が入る地上16階建ての「シュネーダー記念館」の4つの建物で構成されます。それぞれの建物をつなぐ回遊動線「TGUリング」は建物間の移動をしやすくするだけでなく、文系・理系学部の学生同士のコミュニケーションのきっかけをつくる「かなめ」となるもの。その中で生まれる対話や交流が、快適で楽しいキャンパスライフの実現にもつながります。

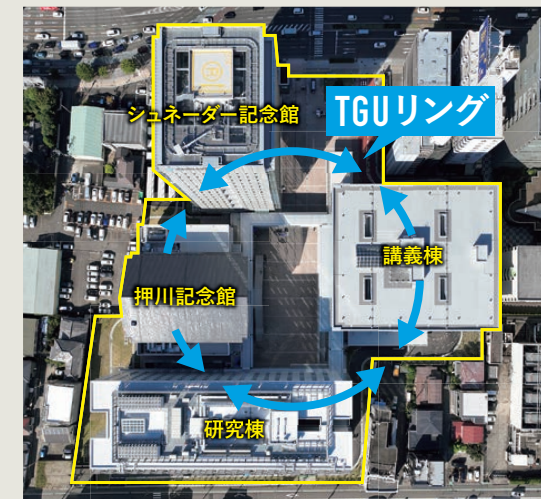
POINT 3

地下鉄五橋駅直結、仙台駅徒歩約15分の立地環境

市街地のほぼ中心部に位置する五橋キャンパスは、JR仙台駅から徒歩約15分。仙台市地下鉄南北線「五橋駅(東北学院大学前)」へ直結し、優れた利便性を備えています。山形や福島などの近隣県からも通いやすく、東北各地から学生が集まることが期待されています。



シュネーダー記念館に入居するカフェや、パイプオルガンを備えた押川記念ホールは市民にも開放されます。



TGUリング:「シュネーダー記念館」「押川記念館」「研究棟」「講義棟」の4つの建物をつなぎ、回遊性を高める「TGUリング」。建物間の移動のしやすさだけでなく、文理問わず学生同士がコミュニケーションを図る象徴的な場であり、この中で生まれる対話や交流が、快適で楽しいキャンパスライフの実現につながります。

